

川棚町民の皆さん、石木ダム建設を中止しましょう！

私たち川辺川を守る県民の会は熊本県内外のダム問題の解決を目指して活動している市民団体です。

この川棚町で石木ダムが建設されようとしています。石木ダムの目的の一つは川棚川の洪水防止ですが、既に川棚川の河川改修によって、過去最大の洪水が来ても溢れずに流せます。もう一つの目的である佐世保市への水の供給も、誤った水需要予測に基づいています。近年の佐世保市の水需要は減少の一途を辿っており、ダムの水を必要とはしていません。にもかかわらず長崎県は、ダム建設のため、水没予定地の川原地区の13世帯約60名の家や田畑を強制収用までして取り上げようとしています。これは人権侵害以外の何物でもありません。川棚町民の皆さん、石木ダム建設を中止しましょう！裏面で、ダムを作ったらどうなるのか、熊本の事例を紹介します。



子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会
〒860-0073 熊本市西区島崎 4-5-13
TEL 090-2505-3880 FAX 096-354-2966
Email: info@kawabegawa.jp

石木川の清流を守り川棚川の治水を考える町民の会
TEL 0956-27-7505
石木川まもり隊 佐世保市潮見町 1-30-1311
TEL 090-6171-5810 FAX 0956-80-1754

ダムが出来るとかえって危険！



熊本県南部を流れる球磨川は急流で川下りや鮎漁で有名です。ダムが無かった頃は大雨が降っても急な増水はありませんでした。球磨川上流に市房ダムが建設されたあと、1963（昭和 38）年から 3 年連続の大水害に見舞われました。想定以上の大雨でダム湖の水が満水状態になると、ダムは放流します。ダムの下流では大雨による水とダム放流の水が一気に押し寄せ、大洪水が発生します。そうやって市房ダム下流の人吉市を始めとする流域は大被害を受けました。ダムが出来るとかえって危険なのです。

ダムは百害あって一利なし



球磨川に出来たダムによって流域住民は水害以外にも様々な弊害に悩まされてきました。振動、護岸崩壊、鮎などの漁場や産卵場所の消滅と漁獲高の激減、赤潮やアオコによる水質汚濁、異臭・ヘドロの発生、それらが一気に下流域に放流されることによる海面漁業への悪影響などです。まさしく「ダムは百害あって一利なし」です。

しかし、流域住民の求めによって、球磨川中流域の荒瀬ダム撤去が始まりました。撤去工事によってダムが出来た前の河川環境や海が回復しています。ダム建設後に姿を消していた魚介類も復活し始め、漁獲高も増えてきています。ダムを撤去すれば自然は復活します。

ただ撤去工事費用は 90 億円近くにも上るなど、簡単に撤去できる訳ではありません。ダムは作らせない方が一番いいのです。

川棚町の皆さん、今からでも遅くはありません。有害無益な石木ダム建設を中止させましょう！

